

昭和四十八年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

一、本要目には、昭和四十八年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものを適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分列配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

新版日本史学史	伊豆 公夫	校倉書房
日本文化技術史	藤田 豊	明玄書房
日本史における価値観の系譜	笠原一男編	評論社
神道考古学講座二・五	大場磐雄編	雄山閣出版
日本の思想 —古事記から 西田幾多郎まで—	小松撰郎編	法律文化社
修験道史研究(東洋文庫)	和歌森 太郎	平凡社
日本天台史 正・続	上杉 文秀	国書刊行会
日本の「道」 —その源流と展開—	林屋辰三郎 上田正昭編	講談社
日本人の生死観	山田宗睦	宗教思想研究会編
宗教と社会	原田 敏明	東海大学出版会
仏教と政治・経済	日本仏教学会編	平楽寺書店
儀礼の構造 日本人の宗教二	田丸徳善 村岡空編	佼成出版社
浄土教の起源及発達	望月 信亨	山喜房仏書林
本邦中世までにおける孟子 受容史の研究	井上 順理	風間書房
講座日蓮 一〜四	田村芳朗編	春秋社
対馬の神道	宮崎英修編	三一書房

日本人とキリスト教	由木 康	春秋社
伝統的革新思想論	市井三郎	平凡社
常民の政治学	布川清司	伝統と現代社
日本近代化の研究 上・下	神島二郎	東京大学出版会
戦後の歴史学と歴史意識	高橋幸八郎編	岩波書店
戦後の歴史学と歴史意識	遠山茂樹	岩波書店
古 代		
続日本古代史論集 上・中・下	坂本太郎博士古 稀記念会編	吉川弘文館
日本古代思想	原田 敏明	中央公論社
日本の神話	森田 康之助	原書房
日本の原像 —国つ神のいのち—	上田正昭	文芸春秋
国生み神話	大林太良他編	学生社
出雲神話	水野 祐	八雲書房
出雲神話の原像	井上 実	三省堂
神々の体系	上山春平	中央公論社
神々の誕生 —日本神話の 思想的的研究—	湯浅 泰雄	以文社
増補日鮮神話伝説の研究	三品 彰英	平凡社
神々と天皇の間 —大和朝廷成立の前夜—	鳥越 憲三郎	朝日新聞社
日本古代の国家と仏教	井上 光貞	岩波書店
古代文化と「婦化人」	金 達寿	新人物往来社
風土記世界と鉄王神話	吉野 裕	三一書房

祖先崇拜の宗教学的的研究
 日本古代の神祇と道教
 古代日本人の世界
 ー仏教受容の前提ー
 日本古代国家論
 上代の浄土教
 日本古代史の諸問題

諸戸素純
 山喜房仏書林
 下出積与
 吉川弘文館
 田中元
 吉川弘文館
 林屋辰三郎
 学生社
 大野達之助
 吉川弘文館
 井上光貞
 思索社

中世

日本中世史論集
 乱世の知識人
 ー孤独と佇立の世界
 太子信仰
 聖徳太子と聖徳太子信仰
 沙門凝然
 親鸞とその弟子
 俊仍律師
 ー鎌倉仏教成立の研究
 日本禅籍史論 上・下

福尾教授退官記念事業会編
 吉川弘文館
 森秀人
 現代思潮社
 林幹弥
 評論社
 小倉豊文
 綜芸社
 越智通敏
 愛媛文化双書刊行会
 石田瑞麿
 毎日新聞社
 石田充之編
 法蔵館
 岡田宜法
 図書刊行会

近世

日本近世政治思想の成立
 ー惺窩学と羅山学
 徳川合理思想の系譜

今中寛司
 創文社
 源了円
 中央公論社

日本の陽明学 中・下
 江戸町人の研究一
 日蓮宗不受不施派の研究
 近世村落の社寺と神仏習合
 金光大神の生涯
 国学政治思想の研究
 近世国学新資料集解
 橘守部
 本居宣長の世界
 本居宣長ー近世国学の成立
 鈴木雅之研究
 草莽論
 ーその精神史的自己検証
 吉田松陰
 吉田松陰
 吉田松陰

荒木見悟編
 明德出版社
 西山松之助編
 吉川弘文館
 影山堯雄編
 平楽寺書店
 竹田聴洲
 法蔵館
 村上重良
 講談社
 松本三之介
 未来社
 佐野正巳
 三和書房
 鈴木暎一
 吉川弘文館
 野崎守英
 塙書房
 芳賀登
 清水書院
 伊藤至郎
 青木書店
 村上一郎
 大和書房
 武田八洲満
 金園社
 佐藤薫
 第一法規出版
 池田論
 大和書房

近代

西田哲学と唯物論
 明治教育世論の研究 上・下
 近代日本道徳思想史研究
 ー天皇制イデオロギー批判
 近代への哲学的考察
 近代文化の構造
 ー近代文化とキリスト教

柳田謙十郎
 青木書店
 本山幸彦編
 福村出版
 山田洗
 未来社
 市井三郎
 れんが書房
 中村勝巳
 筑摩書房

岡倉天心

宮川寅雄

東京大学出版会

津田左右吉の思想史的研究

家永三郎

岩波書店

戦後思想家論

現代の眼編集部編

現代評論社

近代日本と反近代

久野昭

以文社

日本近代化の思想

鹿野政直

研究社

明治国家主義思想史研究

岩井忠熊

青木書店

日本近代化と九州
(「九州文化論集四」)

福岡ユネスコ協会編

平凡社

日本社会主義の黎明

絲屋寿雄

新日本出版社

日本アナキズム運動史

小松隆二

青木書店

日本ファシズム史

田中惣五郎

河出書房新社

中江兆民と植木枝盛

松永昌三

清水書院

幸徳秋水と片山潜

大河内一男

講談社

田中正造と近代思想

中込道夫

現代評論社

北一輝論

松本健一

現代評論社

北一輝

川合貞吉

新人物往来社

大川周明

野島嘉响

新人物往来社

橋孝三郎

松沢哲成

三一書房

近代社会と日蓮主義

戸頃重基

評論社

仏教的立場から西田哲学への理解

増田鷹雄

三崎堂

柏木義円伝

菅井吉郎

春秋社

社会運動とキリスト教

工藤英一

日本YMCA同盟出版部

日本の説教者たち

加藤常昭

新教出版社

戦時下のキリスト教運動
一・二

同志社大学人文
科学研究所編

新教出版社

II 雑誌・紀要論文目録

総 雑

日本文化の構造的な理解をめざして

伊藤幹治

季刊人類学四一
二

日本の思想構造試論
—わが国における哲学の土着化のために—

赤松宏

名古屋工業大学
学報二四

日本人の価値観
—民間信仰の分析について—

波平恵美子

比較教育文化研
究施設二四

日本の仏教思想

藤本智薫

福岡大学人文論
叢四一三

日本の儒学
—儒学思想の日本的展開—

高神信也

智山学報二一

日本文化論の中のキリスト
教像

中道政昭

松陰女子学院大
学紀要一五

「自由」の語義の変遷にみ
る思想史的意義

村岡美恵子

法政史学二五

笠原一男著「親鸞」

小栗純子

社会経済史研究
所紀要七

「連如・一向一揆」
(日本思想大系一七)

柳田富雄

社会経済史研究
所紀要七

古 代

古代日本人の自然観

平野仁啓

文学四一—六

古代日本人の精神構造	平野 仁啓	明治大学人文科学研究所記要一	最澄の大乗戒壇設立について 一・二	大野 達之助	駒沢史学二〇
日本古代の宗教的觀念について	岡田 重精	皇学館大学紀要一一	山家学生式の一私見	森 觀瀾	日本仏学会年報三六
古代政治思想とその進化 ―神話と神と国王―	大西 藤米治	国士館大学政経論叢一九・二〇	照干一隅説に関する疑問 ―福井博士の御所見を中心として―	木村 周照	天台学報一五
祥瑞と法	布施 弥平治	日本法學三八―三	顯戒論縁起における一問題	木内 央	天台学報一四
白鳳天平芸術精神史研究序説 ―群像形式と憂鬱性の表現を中心として―	横田 健一	関西大学東西学術研究所紀要六	単持菩薩戒の主張について	徳田 明本	仏教学研究三〇
聖徳太子の倫理觀	三木 照国	龍谷大学論集四〇〇・四〇一	伝教大師最澄の教判論	仲尾 俊博	密教学一〇
律令制と仏教 ―道昭について―	長 洋一	神戸女学院大学論集一九	伝教大師に扱われた懺悔	塩入 良道	天台学報一四
奈良時代の私度僧に関する史的考察	松本 信道	駒沢大学二〇	日本天台における即身成仏義と天台禪	山内 舜雄	駒沢大学仏教学部研究紀要三一
行基集團の宗教社会的性格	二葉 憲香	龍谷史壇六六・六七	最澄と空海	赤松 俊秀	大谷学報五三―二
和泉における行基の仏教運動	岡田 洋一郎	龍谷史壇六六・六七	顯密二教判と十住心	小田 慈舟	密教学一〇
△日本国現報善惡靈異記△の編纂意識―下	出雲路 修	国語国文四二―二	弘法大師の思想上における華嚴経類の典籍―一	佐藤 隆賢	大正大学研究紀要五八
桓武政権と天台業	仲尾 俊博	日本仏教学会年報三七	弥勒信仰の経過と弘法大師兜率往生の伝について	千瀉 龍祥	密教学研究五
宗祖以前における梵網經の受容	竹田 暢典	天台学報一四	奥院金石銘文よりみた高野山信仰の諸問題	日野西 真定	密教学研究五
弘仁期における宗祖〔伝教〕大師と台密	酒井 敬淳	天台学報一四	阿弥陀仏信仰の起源	香川 孝雄	浄土宗学研究七
			多武峯仏教の研究―上	堀 大慈	京都女子学園仏教文化研究所研究紀要三

平安期に於ける長谷信仰

遠 日出典

芸林二三一六

鳥と族靈崇拜

石上七翰

国学院雑誌七四
一六

右府藤原宗忠の仏教信仰
一・二

河野房男

日本歴史三〇二
・三〇三

疱瘡神について

関根邦之助

日本歴史三〇一

平安朝末期に於ける「専らに心を至す」宗教生活の形態

池田源太

龍谷大学論集四〇〇・四〇一

(書評)水野祐氏著
「出雲神話」

鈴木靖民

神道学七七

王朝文芸の宗教的史観―三―
源氏物語と平家物語の比較
―二―

村田昇

国文学研究(梅光女学院大)八

中世

日本文学に現われた往生要集の一考察

藤井智海

同朋大学論叢二七

中世における歴史叙述の構造

桜井好朗

文学四一―五

仏教と文学―保胤の信仰と狂言綺語観について―

佐々木徹真

日本仏教学会年報三八

末法と末世の歴史意識

小沢富夫

学習院大学文学部研究年報一九

往生伝と平安知識人―保胤と匡房の場合―

小原仁

日本仏教三五

『神皇正統記』試論のための基礎作業―北畠親房の前半生―

我妻建治

成城文芸六五

日本書紀に見える伝典

青木紀元

福井大学教育学部紀要二三

『神皇正統記』の「童蒙」

我妻建治

成城文芸六六

皇祖神タカミムスビの成立に関する一考察

広畑輔雄

日本中国学会報二五

『神皇正統記』の「正理」

我妻建治

成城文芸六八

―その中国思想との関連において―

肥後和男

立正大学文学部論叢四六

神皇正統記と仏祖統記との関係について

平田俊春

除衛大学校紀要二六

造化の三神

植田重雄

早稲田商学二三

法然教学の歴史的意義

石田充之

金沢文庫研究一九―四

万葉集における宗教と歴史の問題点

川添登

季刊人類学四一

法然上人の末法観

浅野教信

真宗学四九

伊勢神宮の成立

倉塚嘩子

文学四一―三・四

『選択集』における「往生の概念」

山崎慶輝

浄土宗学研究七

伊勢神宮の由来―上・下

西山徳

皇学館大学紀要一一

最澄と親鸞

石田充之

龍谷大学論集四〇〇・四〇一

上代における氏神信仰の一考察―高階氏について―

展開

法然教学より親鸞教学への展開

真宗学四七・四八

来迎思想・法然とその門弟 —親鸞の来迎観— ²	浅井成海	龍谷大学論集一 四〇〇・四〇一	初期曹洞宗における国家把握の立場	原田弘道	宗学研究一四
親鸞における時間論の研究	源重治	真宗学四九	曹洞宗史上における大智禪師の位置	広瀬良弘	宗学研究一五
親鸞教学の根本構造	石田充之	龍谷大学論集一 四〇〇・四〇一	初期曹洞宗と義雲の立場	原田弘道	宗学研究一五
親鸞の正像末史観	武内義範	理想四八五	元亨釈書の道元禪師伝について	中世古祥道	宗学研究一五
親鸞における国家批判 —承元の法難と「大無量寿経」五悪段を照応して—	神戸和麿	日本仏教学会年報三七	道元禪師における戒律観の展開	青龍宗二	宗学研究一五
歎異抄第六章について	稲田繁夫	長崎大学教育学部人文科学研究報告二二	道元禪師における引用外典の基礎的研究	大谷哲夫	宗学研究一五
無常観と罪惡観 —親鸞と蓮如をめぐって—	田辺正英	新潟大学教育学部紀要(人文・社会科学編)一四	道元論覚書— ²	春日佑芳	防衛大学校紀要二六
尊円親王撰往生至要抄について —筆蹟と思想と—	多賀宗隼	日本歴史二九八	道元論覚書— ³	春日佑芳	防衛大学校紀要二七
日本華嚴における正統と異端 —鎌倉仏教における明恵と凝念—	鎌田茂雄	思想五九三	西潤子曇行状より見た初期鎌倉禅林—北条時宗禅宗信仰の一断面—	葉貫磨哉	駒沢史学二〇
日蓮聖人の門弟教育と教学の継承	渡辺宝陽	日本仏教学会年報三六	神道五部書と本地垂迹思想	高橋美由紀	日本思想史研究六
一遍上人の回心について	石岡信一	東洋学研究七	外宮神道教学の展開	安津素彦	神道学七九
恵心の「即身成仏義私記」と道元禅	山内舜雄	宗学研究(駒沢大)一五	『神道集』の唱導性	貴志正造	二松学舎大学論集昭和四七年度
道元禅師と明全和尚との思想的関係—特に戒律思想を中心として—	青龍宗二	駒沢大学仏教学部研究紀要三一	吉田神道の成立	出村勝明	神道史研究二二—五
道元禅師における国家と宗教	水野博隆	日本仏教学会年報三七	『日本書紀私見聞』について	久保田収	皇学館大学紀要一一
			『方丈記』に現われた仏教思想について	藤井智海	日本仏教学会年報三八

平家物語構造覚書—中
思想の構造

西田耕三

日本文学二二—
二

城下町在郷町商人の家訓、
店則とその教育観

入江宏

宇都宮大学教育
学部紀要二三

戦記物語における無常観に
ついて—1—

堀内操

中央学院大学論
叢八—1—

新発田藩の庶民教育

山下武

早稲田大学教育
学部学術研究二
二

徒然草の無常観について

高乗勲

日本仏教学会年
報三八

日本文化のなかの李退溪

阿部吉雄

東洋研究三三

花と稽古の論理
—世阿弥の世界—

中山一義

哲学(三田哲学
会)六

中江藤樹と伊予大洲

石丸繁子

大東文化大学漢
学会誌十一

『狂雲集』の思想的諸問題

平野宗浄

日本仏教学会年
報三八

素行学の本領
—山鹿素行の社会経済思
想研究序説

多田顕

千葉大学教養部
研究報告六

真宗寺院における本尊の推移

千葉乗隆

龍谷大学仏教文
化研究所紀要一
二

伊藤仁斎 —その人間像

緒方惟精

右同五

中尾堯『日蓮宗の成立と展開
—中山法華経寺を中心とし
て—』

川添昭二

史学雑誌八二
—一〇

仁斎の基本性格と教育論
—「語孟字義」と「童子
問」を中心

古川治

甲子園大学紀要
三

近 世

近世日本における封建倫理
の—様相—
—家族倫理を中心として

尾形利雄

上智大学教育学
心理学論集七

「女大学」の書誌学
蕃山と樗山 —「遊会実録」
「遊会余語」という本

中野三敏

文学四—一

オノヅカラナルモノ
—近世思想における自然
と人間

安永寿延

文学四十一—六

荻生徂徠の「老子」観
—徂徠「学則」の研究
民族主義者としての徂徠

村上敏治

京都教育大学紀
要四三

近世儒教をめぐる思想的交
錯下(日本思想史の課題と
方法—3—)

守本順一郎

科学と思想九

荻生徂徠の「老子」観
「国意考」にあらわれたま
つりごとの世界

尾藤正英

世界三三八
日本歴史三〇〇
人文学報三六
(京大)

日本における儒教型理想主
義の終焉—3—

松浦玲

思想五九二—

本居宣長—四四

小林秀雄

新潮七〇—三

近世初期儒学史における二
三の問題

和島芳男

大手前女子大論
集七

本居宣長—五
本居宣長—六

小林秀雄

新潮七〇—五
新潮七〇—七

本居宣長―七	小林秀雄	新潮七〇―九	三浦梅園の自然主義と人間主義	柳沢南	倫理学研究二〇
本居宣長―八	小林秀雄	新潮七〇―二	「曆象新書」および志筑忠雄の研究史―三	大森実	法政史学二五
本居宣長―九	小林秀雄	新潮七一―一	日本史家による評価について―一―	〃	〃
本居宣長の思想形成の一視点	安蘇谷正彦	国学院大学日本文化研究所紀要三〇	日本陰陽道の暦学への回帰―洪川春海思想にみる肯定と否定―	岩佐貫三	東洋学研究七
「玉だすき」の研究―上―	小林健三	皇学館論叢六―四	林良斎と近藤篤山との論学書について	岡田武彦	西南学院大学文理論集十三―一
「玉だすき」の研究―下―	小林健三	皇学館論叢六―五	中井竹山と教育観	山下武	早稲田大学教育学部学術研究(教育、社会、教育、教育心理体育)
宣長学の展開―国学と蘭学の習合	佐野正巳	人文学研究所報(神奈川大)七	寛政異学の禁に関する一考察―松平定信における「学問」と「教育」をめぐって	森川輝紀	東京教育大学教育学研究集録十二
上田秋成の思想―国学思想からみた	萱沼紀子	日本文学二二―六	細井平洲の研究―四―	鬼頭有一	東洋研究三三
平田篤胤(特輯)	小林健三	神道学七六	天保期のある少年と少女の教養形成過程の研究―八	高井浩	群馬大学教育学部紀要(人文、社会科学編)二二
古史伝の思想―上	小林健三	神道学七七	橘守部の日々(天保六年)	〃	〃
古史伝の思想―下	小林健三	皇学館大学紀要十一	二宮金次郎尊徳翁遺聞(資料紹介)	土肥国男	社会経済史研究所研究紀要七
谷川士清書簡考	北岡四良	立正大学文学部論叢四六	万善簿のねらい(広瀬淡窓)	大久保勇市	近畿大学教養部紀要五―二
鹿持雅澄における国学と皇朝学	鴻巣隼雄	帝塚山大学論集五	広瀬淡窓の儒林評とその道	大久保勇市	右同四―三
鎌田柳泓研究	楠卓一	日本文化研究所研究報告(東北大)九	佐藤一斎の伝記について	田中佩刀	斯文七三
蘭学と自然哲学一試論	吉田忠				

吉田松陰の教育と其の精神の根源

山崎道夫 東洋研究三三

永田方正年譜〔天保十五〜明治四四〕
—聖書和訳の先覚者

木下清 桃山学院大学キリスト教論集九

吉田松陰の忠誠論

長富優 駒沢史学二〇

「身自鏡」論
—ある戦国武士の生活観
〔毛利家玉木吉保自叙伝〕

奥野中彦 歴史評論二七四

近世初期の浮世思想

鈴木木享 島根大学文学部紀要(文学科編)六

キリシタン禁令をめぐって

三鬼清一郎 日本歴史三六八

芭蕉における自然観

広田三郎 文学四一—一六

徳川家康の文献政策とその影響

小野則秋 仏教大学研究紀要五七

歌舞伎創造の一考察

田中玲子 法政史学二五

百姓一揆の思想

深谷克己 思想五八四

平野金華の位置

野口武彦 文学四一—一八

民衆蜂起の世界像
—百姓一揆の思想史的位
置づけのための試み

安丸良夫 思想五八六

宣長的感性の成立
—キットシタルハ実情ニ
アラス

飛鳥井雅道 文学四一—一四

会津藤樹学と農民意識

庄司吉之助 東北経済五四

「もののあはれ」の美学

草薙正夫 文学四一—一〇

二宮尊徳の思想—下

橋本敏雄 明治学院論叢二〇三

富士谷御杖の言語観

東海林辰夫 語学文学一〇

幕末維新における天の思想

山崎益 高崎経済大論集十五—三

菅茶山の安永九年「北上日記」

頼祺一 刻解 広島大学文学部紀要三二—一

幕末の天皇観—二

石毛忠 日本思想史学五

近世初期儒家の排仏論

福間光超 竜谷史壇六六・六七

近世民衆の社会、政治思想研究の史料的基础—一

坂田吉雄 産大法学六一—四

螢山禪師の坐禅観

木下純一 宗学研究一四

「源了円著」における「自然科学概論『窮理通』」の成立ちについて

帆足 関南次 歴史評論二七五

白隠禅における人間形成の思想

真流堅一 熊本大学教育学部紀要(二人文科学)二二

近世民衆の社会、政治思想研究の史料的基础—一

林基 専修史学五

近世仏教の庶民教化
—仏教説話—

上田靈城 密教文化二〇—二

幕末の天皇観—二

坂田吉雄 産大法学六一—四

慈雲尊者の日本書紀研究
—雲伝神道の唱道—

野口恒樹 皇学館大学紀要十一

「源了円著」における「自然科学概論『窮理通』」の成立ちについて

帆足 関南次 歴史評論二七五

背教者、不干斎フアビアン
の生涯

井手勝美 広島工業大学研究紀要七—二

(書評)今中寛司著『近世
日本政治思想の成立
— 惺窩学と羅山学』
「荻生徂徠全集」
— 自立する思想の源流—
「道」「理」「情」を現代か
ら問い直す

近代

宮城 公子 史林五六—二

尾藤 正英 朝日ジャーナル
十五—十四

野口 武彦 (対談)

加藤弘之の後期思想

嶺雲、愛山論争の意味

近代日本の教化政策と「修
養」概念
— 蓮沼門三の「修養団」
活動

洋学教育史試論
— 明治国家と日本の教育
造変化について

国粋主義地理学の一考察
— 志賀重昂論

岩野泡鳴と大杉栄

有島武郎における「家」の
否定
キリスト者の棄教の周辺
— 有島武郎の場合—五—
棄教の日

愛媛県にみる大正期の自由
教育思潮に基づく教育実践
の展開

北一輝小論
— その若き日の思想形成

中野正剛論
— その思想と行動—二—

津田左右吉論序説

津田左右吉博士の歴史観

渡辺 和靖 日本思想史研究
六

西田 勝 法政大学文学部
紀要一八

松村 憲一 社会科学討究一
九—一

中内 敏夫 科学と思想八

尾崎 ムゲン 社会思想二—四

佐藤 能丸 史観八六、八七

伴 悦 日本近代文学一
七

笠原 芳光 思想の科学別冊
八

石丸 晶子 世紀二七六

影山 昇 愛媛大学教育学
部紀要一九—一

荒川 久寿男 皇学館大学紀要
一一

木坂 順一郎 龍谷法学六一—

綱沢 満昭 近畿大学教養部
研究紀要四—一

木村 時夫 史観八六・八七

明治初期の読書階層

岩手県における自由民権運
動と教育—求我社の運動
における教育の位置と教
育要求

植村正久における「文学」
の喪失

啓蒙批評時代の鷗外
— その思考特性—下

明治思想史上の「浪漫主義」
— 明治二〇年代の高山樗牛

明治期における西洋哲学の
受容と展開—九—

高山樗牛における宗教と
文学と思想

明治期における西洋哲学の
受容と展開—一〇—

大西祝の和歌論

大西祝の徳育論とその意義

瀬沼 茂樹 出版研究四

土方 苑子 国民教育一六

野山 嘉正 文学四—四

磯外 英夫 文学四—一

渡辺 和靖 文芸研究九—

峰 島 旭雄 早稲田商学二三
二

峰 島 旭雄 早稲田商学二三
七

久保田 正文 国文学踏査九

虫 明 玁 岡山大学教育学
部研究集録三六

三枝博音の技術思想
—人間の知性と技術の間
題の探究

飯田賢一

技術と人間五

丘浅次郎の生物学と無常思想

渡辺正雄

科学史研究一〇七

東洋的空と無の関連における西田幾太郎の哲学と鈴木大拙の禅について

山県三千雄

人文論集(早大法学会)一〇

「善の研究」と日本の近代意識

湯浅泰雄

社会思想二一四

西田哲学における「自己とは何かの問題」
—哲学と宗教の関連

川村喜久治

甲南大学紀要(文学編)九

日本近代儒学の意義

宇野精一

東洋研究三三三

近代における真言宗の教育

斎藤昭俊

智山学報二二

久保季滋の基督教批判について
—「洋教弁略」および未発表稿本「洋教弁」を中心

斎藤昭

皇学館大学紀要一一

明治初年における群馬県の廃仏毀釈
—稿本「群馬県郡村誌」の寺院統計を中心として

村田安穂

早稲田大学教育学部学術研究(地理学・歴史学・社会科学編)二一

キリスト教受容に現れた日本人の主体意識
—讃美歌の翻訳・創作・編纂にみる

永藤武

国学院大学日本文化研究所紀要三二

外山正一のキリスト教観
—研究ノート

辻橋三郎

神戸女学院大学論集一九一三

明治国家主義下のプロテスタント
—植村正久・その「予言的」指導性—

溝口潔

法学志林七〇—二・三

都市教会存立の思想的背景
—植村正久の場合

田代和久

日本思想史研究六

井口喜源治の聖書解釈

高橋虔

キリスト教社会問題研究二一

研成義塾と井口喜源治

杉井六郎

キリスト社会問題研究二一

内村鑑三における「自然観」

大内三郎

日本文化研究所研究報告(東北大)九

内村鑑三のおぼえ書—八
ウイリアム・スミス・クラ
ークと内村鑑三

岩谷元輝

城西人文研究一

明治仏教の社会事業思想
—産業革命期を中心に

吉田久一

早稲田商学二二三

天理教教理史研究の資料私
考—明治期における天理
教教理書を中心として

金子圭助

日本仏教学会年報三七

北海道同志教育会と救世軍
遠軽小隊及び遠軽教会の形
成

中川収

キリスト教史学二六

業思想の日本的展開
—緒論・井上円了の妖怪
学について

河村孝照

東洋学研究七

堺利彦研究ノート
—堺利彦と唯物史観研究—
売文社時代

川口武彦

社会科学論集一三

教育者沢柳政太郎における
仏教思想

鈴木美南子

フェリス女学院大学紀要八

大正期における倫理宗教思
想の展開

峰島旭雄

早稲田商学二二三

インド体験型アジア主義の一類型 藤井日達の場合	山折哲雄	アジア経済一四九	「大東合邦論」(樽井藤吉)について 一	伊藤昭雄	横浜市立大学論叢(人文科学)二四 二・三
近代仏教における社会道德観の成立	柏原祐泉	日本仏教学会年報三七	井上毅の明治中期における地方改良構想	暉峻康人	史観八六・八七
近代における日蓮主義と政治	田村芳郎	日本仏教学会年報三七	明治中期における政教の關係・構造 「不敬事件」をめぐって	赤松徹真	竜谷史壇六六・六七
日本プロテスタント史史料 謀者の耶蘇教徒探索報告書について 二 (杉井六郎校注)	小沢三郎編	キリスト教社会問題研究二一	陸羯南の外政論 とくに日清戦争前後の時期を中心として	遠山茂樹	横浜市立大学論叢(人文科学)二四 二・三
維新期における農民の闘争 自由民権運動の前史として	猪飼隆明	日本史研究一三	明治の社会主義 一	飯田鼎	三田学会雑誌六六 一・二
横井小楠研究ノート 思想形成に関する事実分析を中心に	平石直昭	社会科学研究二四 五・六	浮田和民博士の国家論 五	池田美代二	早稲田大学教育学部学術研究(地理学・歴史学・社会科学編)二一
維新前後における軍制の思想 三	針生清人	東洋大学紀要(文学部篇)二六	森有礼「妻妾論」の歴史的思想的背景 「妻妾論」と民法典編纂	貝田寿美子	日本歴史三〇二
自由民権期の交詢社について 一	後藤靖	日本史研究一三三	木下尚江の皇室観とその周辺 明治三〇年代前半を中心にして	後神俊文	岡山史学二六
自由民権運動(天皇制絶対主義の成立と再編 二)	那須宏	岐阜経済大学論集六 三	時事論の難易 義和団事変までの幸徳秋水	山口一之	史観八六・八七
秋田県における自由民権運動と教育	片桐芳雄	国民教育一五	上司小剣論 明治社会主義と大逆事件へのかかわりを中心にして	吉田悦志	文学四一 一〇
福沢諭吉の政治観 一 特別政治的態度と観念構造との関連 一	井田輝敏	八幡大学論集二二 一・二・三	明治憲法論 続	宮沢喜一郎	法律論叢(明治大)四六 一
沼間守一の政体構想と政治意識	安在邦夫	史観八六・八七	日本近代国家の形成と村規約 一 一	山中永之佑	阪大法学八五
秩父事件の歴史的意識 一 その蜂起の論理、世直し一揆との關係を中心に	稲田雅洋	一橋論叢七〇 三			

日本近代国家の形成と村規約
—二— 山中 永之佑 阪大法学八七

五十子敬齋論 色川 大雄 東京経済大学人文自然科学論集三二

日本近代化と商業教育観 鈴木 健一 日本歴史二九九

好太王碑文「改削」説の批判 古田 武彦 史学雑誌八二—八

日本の近代化と「家」 小笠原 真 奈良教育大学紀要二二—一

日韓合邦運動と杉山茂丸 西尾 陽太郎 日本思想史学五

近代天皇制研究序説—八 下山 三郎 東京経済大学会誌八三

日本社会事業の歩み—一四— 一番ヶ瀬 康子 月刊福祉五四—四

大正デモクラシーの解体 —民衆思想の次元における「長野県上田小県地方の青年団の動向を例に」 鹿野 政直 思想五八三

大正初期における「国民の自覚」論 有山 輝雄 新聞学評論二七

中野正剛とファシズム思想 —中— 兼近 輝雄 早稲田政治経済学雑誌二三二

中野正剛とファシズム思想 —下— 兼近 輝雄 早稲田政治経済学雑誌二三四

北一輝における国家有機体説の特質—一— 宮本 盛太郎 社会科学論集(愛知教育大)一二

北一輝と軍部 中西 吉治 史観八六・八七

北一輝論—一 古屋 哲夫 人文学報三六

橋孝三郎と五・一五事件 山崎 博 白山史学一七

明石順三と須磨浦聖書講堂 —灯台社創設前後の謎を 高阪 薫 思想の科学一四

探る 日本リベラリズムの伝統とマルクス主義 小林 甫 社会科学評論二—四

一五年戦争下の知識人の思想と行動 浜口 晴彦 社会学年誌一三

主体性論争 古田 光 現代と思想一三

昭和史論争 犬丸 義一 現代と思想一三

北一輝の思考の枠組をめぐって 竹山 護夫 史学雑誌八二—一

松沢哲成著「橋孝三郎 —日本ファシズム原始回 筒井 清忠 史学雑誌八二—四

帰論派」 兵頭 高夫 比較文学研究二

家永三郎著「津田左右吉の思想史的研究」

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳燭をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石 田 一 良

日本思想史研究 第八号

昭和五十一年三月十五日 印刷
昭和五十一年三月二十五日 発行

編集代表者 石 田 一 良

仙台市原町四丁目九ノ十四

印刷所 合名 共同印刷所

仙台市川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

